シリーズ おすすめスポット vol.34

長野県松本市にある上高地

今回は遠方です。

今回のおすすめスポットは、長野県松本市にある上高地です。滋賀県からですと、東海北陸自動車道を通って高山市内を抜けて松本市方面に向かいます。片道200キロ以上と距離はありますが、それでも訪れる価値のある場所だと感じています。

さて、上高地のシンボルと言えば河童橋。雄大な穂高連峰とエメラルドグリーンの梓川、そして河童橋を一望できる場所が絶好のスポットです。小さい頃に、その風景写真を見て、こんなきれいな場所に行ってみたいと思っていました。実際に訪れてみると、想像以上の雄大な景色と自然の美しさに感動しました。また、河童橋の前にある大正池も、立ち枯れの木々と朝靄がある時は神秘的な風景が広がります。静かな大正池の水面は山々の美しい緑を映し出し、とてもきれいです。上高地は心身ともに癒されるおすすめスポットです。



【大正池と山々】

～湖北会後援会より～【湖北会後援会　入会御礼ならびにお願い】

令和7（2025）年度は、湖北会後援会への入会お願いの活動から、個人288名と会員の輪が広がり、法人ならびに事業所に 312,400円 の助成を行なうことができました。ご支援、誠にありがとうございました。

利用者、家族間の力では解決できない問題に対して、法人はもとより、湖北会後援会としても支援の輪を広げ、利用者の方々の喜び・楽しさ・感謝の気持ちを胸に、前へ進んでいきたいと考えています。

今年度も新役員を中心に、引き続き入会の継続、新規の入会お願いを勧めて、少しでも会員の輪を広げていきたいと考えています。皆様の湖北会後援会へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

湖北会 後援会 の趣旨に賛同いただき、ご支援してくださる方々の後援会への入会をお願い申し上げます。

個人会員	一口	1,000円
団体会員	一口	5,000円

郵便振替口座
00950－8　232378
名義　　社会福祉法人 湖北会 後援会

編集後記

朝夕に涼しさを感じ、秋の深まりを感じる季節となりました。秋は過ごしやすい一方で、台風や大雨などの自然災害にも注意が必要な時期です。近年、線状降水帯による水災害や全国各地での地震など、いつどこで災害が起こるかわかりません。日頃から「キキクル」や気象情報を確認し、ハザードマップで身近な危険箇所や避難場所を把握しておくことが大切です。いざという時に落ち着いて行動できるよう、日々の暮らしの中で、無理なく防災意識を高めていきましょう。

編集委員　中川



ワークスさかたの行事紹介

8月8日（土）に毎年恒例行事の「食事会」を実施しました。

午前はワークスさかたにて「引田雲好」さんによる不思議なマジックショーで楽しい時間を過ごし、その後長浜のグラツィエへ移動しておいしい食事をいただきました。昼食後はギターとボーカルのデュオ「雫」さんの演奏を聴きました。懐かしい名曲から始まり心を惹きつけられ、手拍子や口ずさむ場面もあり、ご利用者様もご家族様もとても楽しまれていました。とても素晴らしい歌声とギターの音色が、いつまでも余韻が残り特別な一日となりました。

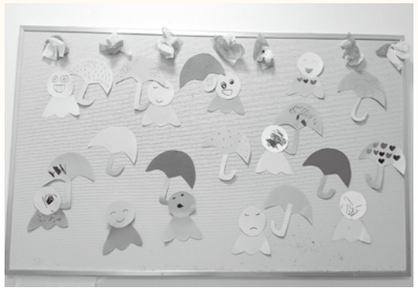
（金沢・山根）

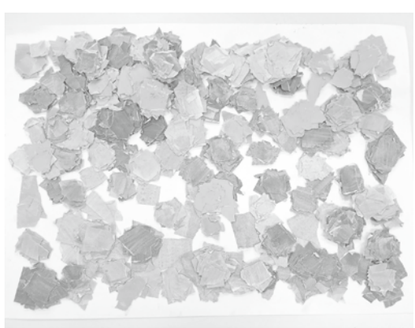
～いぶきやまの作品紹介～

いぶきやま生活介護では、毎月アート活動と工作活動の時間の中で作品作りを行っています。利用者の皆さんが思い思いに表現した作品です。一つひとつの個性あふれる作品をぜひご覧ください。









広報 こほくかい 秋号

○発　行／湖北会 広報室（法人本部）
○住　所／滋賀県長浜市富田町431番地5
○発行者／北野　憲一
○発行日／令和8年10月30日

2025年度（令和7年度） 事業報告

2025年度は、法人の将来像を見つめ直し、持続可能な経営と支援のあり方を模索する重要な転換点となりました。障害福祉サービス報酬改定による影響、利用者の高齢化・重度化、人材不足など厳しさを増す環境のなか、次代に即した経営指針を確立すべく、新たな一歩を踏み出しています。

将来を見据えた経営の在り方や社会情勢、地域社会の実情等に応じて生じる課題への取り組み、そして障害のある方を支える人材の確保・育成が重要な課題となり各種検討・取り組みを進めています。

1 将来を見据えた経営基盤の強化

①3つの「特別委員会」を新設

時代の変化に即した具体的な経営方針を策定するため、新たに以下の委員会を設置しました。

- ●入所施設検討委員会
- ●GH（グループホーム）検討委員会
- ●米原通所事業所検討委員会

②採用基盤の強化と多様な人材活用

求人サイトの新設や「奨学金返還支援制度」の創設（R8運用開始）など、採用力を強化。京都・滋賀圏域の大学等４校への訪問も実施しました。

今年度実績：既卒採用３名、正規職員登用４名（計7名）

多様な雇用：

「湖北まこも」にて外国人留学生2名をアルバイト受入

2 2025年度の重点事業と取り組み成果

◆ 虐待防止・権利擁護の徹底と安全な支援体制の再構築

今年度、法人内で虐待事案が発生したことを厳粛に受け止め、痛恨の極みとして深く反省いたします。この課題を全事業所で共有・教訓とし、他法人の事例や研修情報を活用しながら、原点に立ち返って安全・安心な支援体制の再構築に全力を注いで参ります。

◆ 相互尊重の職場環境づくりとハラスメント予防

ハラスメント窓口の担当者を対象とした研修を実施しました。相談対応スキルの向上を図るとともに、各現場における早期発見・早期対応に向けた体制づくりを進めました。

◆ 組織力強化とICT・DXの推進

ICT・DX展示会への参加や、他法人における導入事例の情報収集を積極的に行い、今後の業務効率化や支援の質向上に向けた基盤づくりに努めました。

◆ 施設整備（旧「ほっぷる」建物の解体・引き渡し）

旧「ほっぷる」建物の解体工事（施工：株式会社吉勝重建）を計画通りに完遂いたしました。12月25日には長浜市への引き渡しを滞りなく完了しています。



法人単位資金収支計算書

（自）令和7年4月1日　（至）令和8年3月31日

（単位:円）

勘定科目	予　算(A)	決　算(B)	差　異(A)－(B)
就労支援事業収入	47,398,000	43,889,736	3,508,264
下請事業収入	23,887,000	21,008,075	2,878,925
自主事業収入	7,511,000	8,827,745	△ 1,316,745
委託事業収入	16,000,000	14,053,916	1,946,084
障害福祉サービス等事業収入	1,629,526,000	1,624,211,497	5,314,503
自立支援費給付費収入	1,359,240,000	1,354,863,412	4,376,588
障害児施設給付費収入	32,030,000	31,407,049	622,951
利用者負担金収入	1,391,000	1,379,980	11,020
補足給付費収入	13,010,000	13,358,205	△ 348,205
特定費用収入	115,798,000	116,293,724	△ 495,724
その他の事業収入	108,057,000	106,909,127	1,147,873
経常経費寄附金収入	338,000	493,400	△ 155,400
受取利息配当金収入	2,994,000	5,739,537	△ 2,745,537
その他の収入	9,794,000	9,662,718	131,282
事業活動収入計　(1)	1,690,050,000	1,683,996,888	6,053,112
人件費支出	1,198,962,000	1,196,187,295	2,774,705
事業費支出	191,964,000	189,819,153	2,144,847
事務費支出	186,643,000	167,623,135	19,019,865
就労支援事業支出	47,398,000	45,004,014	2,393,986
就労支援事業販売原価支出	14,890,000	8,196,241	6,693,759
就労支援事業販管費支出	32,508,000	36,807,773	△ 4,299,773
支払利息支出	1,231,000	1,271,922	△ 40,922
その他の支出	6,820,000	6,187,338	632,662
流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0
事業活動支出計　(2)	1,633,018,000	1,606,092,857	26,925,143
事業活動資金収支差額(3)=(1)－(2)	57,032,000	77,904,031	△ 20,872,031
施設整備等補助金収入	3,776,000	3,776,000	0
施設整備等寄附金収入	0	0	0
施設資金借入金収入	0	0	0
固定資産取売却収入	1,198,000	2,724,000	△ 1,526,000
その他の施設整備等による収入	0	0	0
施設整備等収入計　(4)	4,974,000	6,500,000	△ 1,526,000
設備資金借入金元金償還支出	24,050,000	24,050,000	0
固定資産取得支出	27,295,000	28,587,113	△ 1,292,113
固定資産除却･廃棄支出		17,221,160	△ 17,221,160
ファイナンス･リース債務の返済支出	2,049,000	2,048,640	360
施設整備等支出計　(5)	53,394,000	71,906,913	△ 18,512,913
施設整備等資金収支差額(6)=(4)－(5)	△ 48,420,000	△ 65,406,913	16,986,913
積立資産取崩収入	9,000,000	9,000,000	0
その他の活動による収入	0	0	0
その他の活動収入計(7)	9,000,000	9,000,000	0
長期貸付金支出	2,240,000	2,240,000	0
積立資産支出	8,686,000	11,779,804	△ 3,093,804
その他の活動支出計(8)	10,926,000	14,019,804	△ 3,093,804
その他の活動資金収支差額(9)=(7)－(8)	△ 1,926,000	△ 5,019,804	3,093,804
予備費支出　(10)	6,686,000	0	6,686,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)－(10)	0	7,477,314	△ 7,477,314
前期末支払資金残高(12)	646,839,000	646,938,706	△ 99,706
当期末支払資金残高(11)+(12)	646,839,000	654,416,020	△ 7,577,020

法人単位事業活動計算書

（自）令和7年4月1日　（至）令和8年3月31日

（単位:円）

勘定科目	予　算(A)	決　算(B)	差　異(A)－(B)
就労支援事業収益	43,889,736	41,454,561	2,435,175
下請事業収益	21,008,075	20,990,733	17,342
自主事業収益	8,827,745	7,515,246	1,312,499
委託事業収益	14,053,916	12,948,582	1,105,334
障害福祉サービス等事業収益	1,624,211,497	1,597,962,590	26,248,907
自立支援給付費収益	1,354,863,412	1,345,429,657	9,433,755
障害児施設給付費収益	31,407,049	29,439,059	1,967,990
利用者負担金収益	1,379,980	1,498,341	△ 118,361
補足給付費収益	13,358,205	13,762,280	△ 404,075
特定費用収益	116,293,724	112,246,527	4,047,197
その他の事業収益	106,909,127	95,586,726	11,322,401
経常経費寄附金収益	493,400	1,352,160	△ 858,760
サービス活動収益計　(1)	1,668,594,633	1,640,769,311	27,825,322
人件費	1,210,958,771	1,130,723,914	80,234,857
事業費	189,819,153	190,413,146	△ 593,993
事務費	167,623,135	165,120,837	2,502,298
就労支援事業費用	45,120,110	42,810,772	2,309,338
就労支援事業販売原価	8,312,337	7,435,362	876,975
就労支援事業販管費	36,807,773	35,375,410	1,432,363
減価償却費	130,056,799	125,671,836	4,384,963
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 48,407,158	△ 47,168,573	△ 1,238,585
サービス活動費用計　(2)	1,695,170,810	1,607,571,932	87,598,878
サービス活動増減差額(3)=(1)－(2)	△ 26,576,177	33,197,379	△ 59,773,556
受取利息配当金収益	5,739,537	1,316,742	4,422,795
その他のサービス活動外収益	12,340,638	12,584,071	△ 243,433
サービス活動外収益計　(4)	18,080,175	13,900,813	4,179,362
支払利息	1,271,922	1,438,626	△ 166,704
その他のサービス活動外費用	6,196,618	6,858,266	△ 661,648
サービス活動外費用計　(5)	7,468,540	8,296,892	△ 828,352
サービス活動外増減差額(6)=(4)－(5)	10,611,635	5,603,921	5,007,714
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 15,964,542	38,801,300	△ 54,765,842
施設整備等補助金収益	3,776,000	62,525,000	△ 58,749,000
施設整備等寄附金収益	0	0	0
固定資産受贈額	3,266,380	0	3,266,380
固定資産売却益	2,723,991	1,794,997	928,994
その他の特別収益	0	0	0
特別収益計(8)	9,766,371	64,319,997	△ 54,553,626
固定資産売却損･処分損	25,033,889	481,836	24,552,053
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 7,431,488	0	△ 7,431,488
国庫補助金等特別積立金積立額	1,011,000	59,760,000	△ 58,749,000
その他の特別損失	0	0	0
特別費用計(9)	18,613,401	60,241,836	△ 41,628,435
特別増減差額(10)=(8)－(9)	△ 8,847,030	4,078,161	△ 12,925,191
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 24,811,572	42,879,461	△ 67,691,033
前期繰越活動増減額(12)	1,094,037,008	1,055,565,236	38,471,772
当期末繰越活動増減額(13)=(11)+(12)	1,069,225,436	1,098,444,697	△ 29,219,261
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他積立金取崩額(15)	9,000,000	5,360,976	3,639,024
その他積立金積立額(16)	2,949,804	9,768,665	△ 6,818,861
次期繰越金活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)－(16)	1,075,275,632	1,094,037,008	△ 18,761,376

法人単位貸借対照表

（令和8年3月31日現在）

（単位:円）

資産の部	当年度末	前年度末	増減
流動資産	732,502,864	725,657,490	6,845,374
現金預金	408,907,340	405,345,590	3,561,750
事業未収金	283,629,431	278,217,655	5,411,776
未収金			0
未収補助金		30,000	△ 30,000
商品･製品	75,120	48,775	26,345
原材料	946,921	1,051,504	△ 104,583
立替金	37,377,776	37,831,414	△ 453,638
前払費用	1,566,276	3,132,552	△ 1,566,276
仮払金	0	0	0
固定資産	3,049,162,513	3,155,266,191	△ 106,103,678
基本財産	2,237,258,871	2,345,084,233	△ 107,825,362
土地	13,100,000	13,100,000	0
建物	2,223,158,871	2,330,984,233	△ 107,825,362
定期預金	1,000,000	1,000,000	0
その他の固定資産	811,903,642	810,181,958	1,721,684
建物	52,246,271	55,042,703	△ 2,796,432
構築物	36,512,586	40,944,321	△ 4,431,735
機械及び装置	3	3	0
車輌運搬具	48,099,914	35,626,040	12,473,874
器具及び備品	19,207,645	19,943,662	△ 736,017
建設仮勘定	0	0	0
有形リース資産	4,609,440	6,658,080	△ 2,048,640
無形リース資産	0	0	0
ソフトウェア	1,648,167	2,286,167	△ 638,000
投資有価証券	50,000	50,000	0
長期貸付金	3,780,000	1,540,000	2,240,000
退職共済預け金	126,257,098	122,496,678	3,760,420
工賃変動積立預金	9,967,158	9,740,532	226,626
設備等整備積立預金	1,134,744	1,134,744	0
人件費積立預金	50,000,000	50,000,000	0
修繕費積立預金	402,394,413	399,826,635	2,567,778
備品購入積立預金	55,116,526	63,961,126	△ 8,844,600
長期前払費用	0	0	0
その他固定資産	879,677	931,267	△ 51,590
資産の部合計	3,781,665,377	3,880,923,681	△ 99,258,304

負債の部	当年度末	前年度末	増減
流動負債	155,759,273	153,745,139	2,014,134
事業未払金	76,846,490	77,575,120	△ 728,630
1年以内返済予定設備資金借入金	23,345,000	24,050,000	△ 705,000
1年以内返済予定リース債務	2,048,640	2,048,640	0
預り金	66,295	43,385	22,910
職員預り金	152,018		152,018
賞与引当金	53,300,830	50,027,994	3,272,836
固定負債	349,330,898	370,964,118	△ 21,633,220
設備資金借入金	220,513,000	243,858,000	△ 23,345,000
リース債務	2,560,800	4,609,440	△ 2,048,640
退職給与引当金	126,257,098	122,496,678	3,760,420
負債の部合計	505,090,171	524,709,257	△ 19,619,086

純資産の部	当年度末	前年度末	増減
基本金	463,338,423	463,338,423	0
基本金	463,338,423	463,338,423	0
国庫補助金等特別積立金	1,219,348,310	1,274,175,956	△ 54,827,646
国庫補助金等特別積立金	1,219,348,310	1,274,175,956	△ 54,827,646
その他の積立金	518,612,841	524,663,037	△ 6,050,196
工賃変動積立金	9,967,158	9,740,532	226,626
設備等整備積立金	1,134,744	1,134,744	0
人件費積立金	50,000,000	50,000,000	0
修繕費積立金	402,394,413	399,826,635	2,567,778
備品購入積立金	55,116,526	63,961,126	△ 8,844,600
次期繰越活動収支差額	1,075,275,632	1,094,037,008	△ 18,761,376
(うち当期活動収支差額)	△ 24,811,572	42,879,461	△ 67,691,033
純資産の部合計	3,276,575,206	3,356,214,424	△ 79,639,218
負債及び純資産の部合計	3,781,665,377	3,880,923,681	△ 99,258,304



ゆるり・ふくらの森・ライフまいばら インスタ合同作品展

11月開始予定

これまで各事業所でそれぞれ開催してきた作品展を、今年は形を変え、3事業所合同の「インスタ作品展」として開催します。

事業所の垣根を越えて、利用者の皆さんが心を込めて制作した作品を一堂に紹介します。Instagramを通して、より多くの方に作品をご覧いただき、利用者の皆さんの「作る楽しさ」や「表現するよろこび」を感じていただければと思います。

今回の3事業所合同での取り組みを一つのきっかけとして、今後、法人内の他の事業所にも作品展の輪が広がり、利用者の皆さんの作品や活動を多くの方に知っていただく機会につながればと考えています。

ぜひInstagramをご覧いただき、個性あふれる作品をお楽しみください。

新顔登場 新入職員紹介

①出身市　②配属先
③趣味・特技
④ 入職にあたっての抱負



にしぼり　あやめ
西堀　菖

①長浜市
②ワークスさぼてん
③映画鑑賞
④9月よりワークスさぼてん配属にてこれからお世話になります。福祉の仕事は未経験ですが、利用者様1人ひとりに寄り添う気持ちを大切にし、日々の業務から多くを学びたいです。経験を積み、安心して頼っていただける職員を目指して努力していきます。



こやま　ひろゆき
小山　弘行

①長浜市
②あそしあ
③魚釣り、映画鑑賞、犬の散歩
④何事にも前向きに挑戦し、わからないことはそのままにせず、早く職場の一員として貢献できるように努力します。基本を大切にし、丁寧で確実な仕事に努めます。



しみず　じゅんこ
清水　純子

①長浜市
②やまぶき
③旅行
④年齢を理由に妥協せず、新しい知識や手順を素直に吸収する覚悟です。
まずは目の前の業務を正確に覚えることから地道に努力いたします。

ワークスさぼてん

「ワークスさぼてん」では令和8（2026）年6月1日より就労選択支援事業を開始しました。就労選択支援についてご説明させていただきます。

概　要

障害者本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援する新たなサービス（就労選択支援）を創設する。

対 象 者

就労選択支援の対象者は、就労選択支援の施行に伴い、就労継続支援Ｂ型は令和7年10月より『就労選択支援事業者によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている者』が利用対象となります。新たに就労継続支援Ｂ型を利用する場合は、就労選択支援を予め利用することになります。

支援内容

就労選択支援は、本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援するサービスです。本人との協同による意思決定を支援するサービスであり、就労の可否を判断したり、どの就労系障害福祉サービスを利用するかの振り分けを行うものではありません。

基本プロセス

